

## 第28回西部労福協研究集会 in 徳島

生協運動の父「香川豊彦」に学ぶ！

2009.11.5～6

### 2009年度西部労福協第28回研究集会in徳島に参加して

—『愛は、私の一切である』家庭の不幸、病苦、破産など多くの苦難を乗り越えて神戸のスラム救済活動から再生した賀川豊彦。大正デモクラシーの先頭に立ち、さまざまな社会運動を指導して社会悪と闘い、弱者とともに歩んだ人。戦争に反対し、生涯を通じて世界平和のために身を捧げた人— これは、鳴門市賀川豊彦記念館のパンフレットに記載されている一文です。



西部労福 小川会長

このたび、2009年度西部労福協主催の第28回研究集会 in 徳島に参加してきました。この会の研究テーマが、「生協運動の父『賀川豊彦』に学ぶ！」というタイトルで、賀川豊彦（以下賀川）の活動を改めて見つめ直し、今後の労福協の活動の指針にしようというものでした。賀川は、キリスト教伝道者として献身的な奉仕活動を行ったのみならず、労働運動、協同組合運動をはじめ世界平和運動までも指導した偉大な社会運動家として評価されており、海外での知名度は大変高いそうです。（嘆かわしいことに私は本会で初めて賀川を知りました。）研究集会は11月5日（木）～6日（金）の2日間で、初日は賀川の活動と生涯を描



映画 一場面

いた映画「死線を越えて—賀川豊彦物語—」の上映と懇親会、2日目は賀川豊彦記念館館長で鳴門教育大学名誉教授の田辺健二先生の基調講演を拝聴しました。田辺先生は、「賀川豊彦の再評価」～21世紀のグランドデザイナーとして～という題で講演され、「現在の経済不況、格差拡大、アメリカや日本の政権交代という今、時代が賀川豊彦を求め必要としている。こ

れは歴史的必然性である。しかし、賀川は忘れ去られている。今こそ、賀川の理論と実践を再評価する時である。」と意義づけられました。賀川は神戸市で生まれ、徳島県で育ちました。神学校在学中の21歳の時、結核のため余命2年と医者から宣言されたのを機に、当時日本最大の貧民街・神戸新川で貧民救済活動を始めました。何度も病状の悪化による絶命の危機を乗り越え、貧困と差別に苦しめられていた人々のために精力的に活動し、72歳で生涯を終えました。賀川は日本だけでなく世界中で活動を行いますが、貧困と差別から人々を救いたいと一心に念じた彼の情熱が、50年余にも亘る長い活動を支えたのでしょうか。それだけではありません。活動が大きく広がった背景には、賀川の常に周囲の人々に対する感謝の気持ちがあったと推察します。大自然に恵まれた徳島の、たくましくそして人情ゆたかな風土で育った気質もあったでしょう。偏見や差別と闘う鋭い視点、常に社会的弱者と向き合う穏やかな眼差しの大切さを改めて感じました。

話が前後しますが、開会に先立ち西部労福協会長の小川俊氏があいさつで、協力・助け合いが労働運動の基本であるということと、日本理化学工業（株）の障害者雇用の話をされました。戦後間もなくこの会社で始まったこの制度では、きちっと生産するにはどうしたらいいかを健常者がアイデアを出すことで会社が活気付くとともに、障害者にとっても世の中の役に立っているという思いや働くことによって得られる生きがいや喜びもあり、結果的に社会貢献にもつながっているという

内容でした。協力、互助の精神のもと、人と人との強い結びつきを築いていくことが大切な時代だと再認識できました。



最後になりましたが、このような有意義な研究集会に参加させていただき厚くお礼申し上げ、本研究集会の報告といたします。

鳥取県労福協西部支部幹事 内田浩文